

増補新装版へのあとがき

2003年に刊行した『日米ボディーク 身ぶり・表情・しぐさの辞典』を、判型を縮小し、ハンディな増補新装版として再び世に問うことになりました。巻末には、「身ぶり」と異文化理解」と題し、身ぶりに関する基礎的な事項をまとめた解説を増補しました。旧版は、身ぶり（ジェスチャー）の調査に基づいたユニークな辞典として、外国人留学生たちの日本文化理解や日本人学生たちの異文化理解に、また、たとえばロボット工学関係の研究室や、テレビ局の番組制作の資料として、多少とも役立ってきたのではないかと自負しています。

「日本人編」の身ぶりは、私たちにとっては自明のことと思えるかもしれませんが。しかし、海外に留学した日本人学生の多くが、留学先で日本の文化や風土、習慣などについて聞かれ、如何に自分が自国のことを知らないかということに気づかされるように、身ぶり手ぶりの意味や使い方に関しても意識して考える機会は決して多くはありません。私たち自身の文化の一端である身ぶり手ぶりについて、自ら調査し理解することが必要であるとの思いから、私はこの分野の研究調査を続けてきました。

身ぶり手ぶりの意味や使い方について、自身の経験のみに頼って日本人全体がそうであるかの如く説明するわけにはいかないと考えます。なぜならば、自分が生まれ育った地域以外ではそのような使い方はしないかもしれませんし、世代が異なると意味が通じないかもしれません。身ぶりには、同じ人間として共通に理解できることもある反面、「文化差」はもちろんのこと、「地域差」「年齢差」「男女差」「状況差」、そして「個人差」があるからです。本書は、「日本人編」も「アメリカ人編」も長年にわたる調査のデータを基に客観的に記述しています。これが本書の大きな特徴であるとともに、データ集としての価値がある所以です。

本書のもう一つの大きな特徴は、〈使われ方〉として、「使用頻度」「性別」「年齢」「親密度」「形式度」「品位」に関する数値的データを提示していることです。身ぶりについて、このような〈使われ方〉を明らかにしたデータとその分析がある類書は、他に例がありません。フォーマルな場面で使う身ぶりなのか、親しい友だちとインフォーマルな場面で使うものなのかなど、留学生は日本人の身ぶりの使用状況についてかなり詳細な情報を得られるでしょう。また、アメリカに留学する日本人学生も、アメリカでは男性が使う身ぶりなのか、女性が使うことが多いのかなどの違いが理解できるはずです。データの読み取りができるようになると、一つ一つの身ぶりへの洞察が深まります。身ぶりの意味を知っているだけ

では、その理解のほんの入口に立ったにすぎないのです。

「アメリカ人編」は、「卒業 (The Graduate)」「アメリカン・グラフィティ (American Graffiti)」「ジョーイ (Something for Joey)」といった、懐かしの名画から身ぶりを取り上げ、該当場面の会話とともに載せてあります。実際に映画やTVドラマのDVDを見ながら一つ一つの身ぶりを確認していくのも、洋画ファンや英語学習者にとって楽しい作業となるでしょう。また、小・中学校の国際理解教育の授業で、「異文化の身ぶりを理解する」という観点から本書のデータを使っていただくことも可能です。

「日本人編」は、日本にいる留学生や企業で働く在日外国人にとって、日本人を理解する一助となるはずですが、日本語が流暢に話せたり理解できたとしても、本書にあげたような身ぶりを理解してはじめて真のコミュニケーションが取れるようになります。日本語教育の現場である日本語学校でも、参考書としてぜひ備えていただくことをお奨めします。

今回は、デズモンド・モリス 著／東山安子 訳『ボディートーク新装版 世界の身ぶり辞典』(三省堂)との同時出版となりました。この二冊は扱う地域が相補的な関係にあり、両方を利用することでより深く身ぶりを理解することができます。共通点は、どちらも調査データを基にした客観的な記述を心がけており、信頼性が高いことです。『ボディートーク』には、モリスの長年の人間観察者としての知見や動物行動学者としての視点が記述されていることも見逃せません。本書の巻末には、それぞれの辞典で相互に関連している身ぶりの名称や番号をまとめた「項目一覧および対照表」を付しました。両者を、読む辞書としてご利用頂くことにより、人間のコミュニケーションのおもしろさに気づき、身ぶりを通じた異文化理解を深めることができるでしょう。いつも手元に置いて楽しんで頂ければ幸いです。

2016年3月9日

INVC 暮らしとアートの研究所

<http://nonverbal-invc.com>

代表 東山 安子